

# しまものみつけ

平成 26 年 5 月 12 日 発行 VOL.1

発行:いきものみつけファーム滋賀  
 推進協議会  
 編集:事務局 竜王  
 住所:甲賀市土山町黒川  
 電話:090-7966-2262  
 FAX:0748-68-0598  
 E-mail:ryuoh-mtm@maia.eone.ne.jp

## いきものみつけ寺子屋・田植えと観察会

2014.5.6



参加者は、甲賀市内外からの親子四十七名(子どもは二歳児から)とスタッフ。前日の雨から一転、晴天に恵まれました。この寺子屋事業は、体験活動と観察会によって、「いのちがにぎわう里や農地は何か」、「安全な食とは何か」に関心を持ち、いのちにぎわう里を復元させようとするのがねらいです。今年の寺子屋は、お馴染みの土山町山内地先がフィールド。

現代版 手植えを実施。田植えをしたことのない子どもが上手に植えられるために、田植機による田植えの見本を田んぼの提供者である林さんがしてくれ、それをお手本に畦から田植えをしました。子どもたちはほとんどが素足、初めは足が抜けなく、泣きべそをかいている子どもたちも、時間が経つにつれ、手つきが良くなってきました。お尻を泥だらけにしている女の子もお百姓さんに誉められて満足げ。そして、次は泥だらけの足を横の川原で洗いました。ついつい水生昆虫に気がついてしまいました。

いきもの観察会は、井阪尚司環境カウンセラー(元小学校教員)が進行。子どもたちはそれぞれバケツを持ち、あぜ道を散歩。

アカハライモリ、かに、どじょう、カワニナ、ヒル今回参加の子どもの大人も直に掴んだりが平気です。シレーゲルアオガエルやアカハライモリも見つけました。

そこに、滋賀県立大学名誉教授(環境生態学)の三田村先生が登場。田んぼやかわにはいきものがいっぱいいるんだよ、みんなは一緒にいきっているんだよ、「ただ生きものを見つけてだけじゃなくて、どこにいたのかをしっかりと見てや」(生態系の中の生きもの様子を自分たちで気付いて欲しい)。

午後からは、午前中のまとめ。いきもの観察シートを横に、自分達がいきました。いきものに〇を付けていきました。

地域の人は、昔はな、ここらにもぎょうさん(たくさん)の魚がいてな、川に入ったら草履に魚の稚魚がすりぬけるくらいや」と昭和30年までの川の様子を教えてくださいました。

最後は、自分なりの絵日記を書き、思い出に残ったことを数名が発表。

ちっちゃな子が描くなぐり描きも、意味があって説明できた子どもたちに大人たちは関心。お手伝いをしてくださった地域のボランティアさんには大変感謝をしながら楽しい一日が終わりました。



お昼は、六友館に移動、地域のおばちゃん(お結びの会)の手づくり料理。おにぎり、豚汁、めんま(コゴミ)、うど、さつまいも、ちくわ、あいが菜・カラシ菜の和え物、ウドの酢の物、サラダ。おなかもすいていて、美味しく頂きました。片づけを、参加された方々もお手伝いいただき感謝。

## 第三弾

# いきものみっけ寺子屋

## 芋の苗植え

6月は、いもの苗植えをします。  
芋は、さつまいもです。土を触り、穴を開けてさつまいもの茎をさしていきます。  
土の中にはなにがいるのでしょうか。  
ミミズやモグラに出会えるかもしれません。  
秋の収穫に向けて、自分たちのお芋を作りましょう。



内容:芋の苗植え(荒天時は田舎のおやつ作り)  
といきもの観察

日時:平成26年6月14日(土曜日)

14時から16時

集合時間:13時45分

集合場所:山内地域市民センター駐車場

持ち物:いきもの観察シートの入ったファイル

(田植えの時に渡したファイル)

筆記用具、色鉛筆、図鑑

軍手、汚れてもいい靴

移植ごて 水筒

荒天時はエプロンが必要です。



参加費:3歳以上 ひとり500円

申込み:6月13日まで 090-7966-2262

★次回予告

7月20日(日曜日) 終日

夏休み自由研究・工作講座、いきもの観察

## メンバーよりひとこと

いきものみっけファーム滋賀推進協議会

会長 岡田 和男 氏

会長の岡田さんは、永年甲賀郡農協にお勤めをされ、現在は、仲間と米作りの研究をしながら楽しんで農家をされておられます。そんな岡田会長が“いきものみっけ”にかける夢とは???



岡田さんは言います。

「大半の農業は“土”で成り立っています。自然の生き物は土なくしては、生存しない。私たちの住む地域は、最高の自然環境に恵まれています。がしかし、経済の豊かさを手に入れることによって自然界は大きく変化し、生き物は絶滅して行きにくくなりました。今、人々の幸福な暮らしとは、必ず健康維持であり、そして安全安心が不可欠です。私たちは“いきものみっけ”活動を通じて、原点に戻り、大地の栄養をたっぷり注がれた、生きた土を作りましょう。命を育む環境と自然にやさしい土の力こそが、多くのいきものかにぎわう自然界となり、そこに育つ農作物作りが今、そして未来に望まれているんですね。

## いきものみっけって何???

環境省がすすめる多様ないきものがある場での「食と農」に関する環境学習・環境活動のプログラムの一つです。滋賀の取り組みは、全国で3番目に市民活動主体で、**いきものみっけファーム滋賀推進協議会**としてスタートしました(平成24年12月)。全国に多くの場所で展開されていますが、市民活動団体が主体となっている滋賀はオリジナルスタイルとして注目されています。

★目的:産官学民が力を合わせて、いきもの命が賑わう里地を整えます。その場において資源循環型農法による農産物の生産・流通・消費の仕組みづくりと環境学習を通じて安全・安心でみんなが豊かになれる社会の実現をめざします。



### ★内容

#### ・循環型農法の実践

土中微生物が元気になる土作り、作物の根が活力を持ち、いきものかにぎわう土づくりを農家さんが行いその場において、**美味しい米や農作物**を作ります。

⇒付加価値のある農作物作り(例:金芽米)

#### ・農作物の認証

いきものが認証してくれる指標づくり



#### ・環境学習

多様ないきものの学習、(どうしてここにこの生き物がいるの??、どうしてこの場所にはいないの??)

農作業の体験を通じて“命をいただくこと”の理解(食育)健康で安全・安心な食への関心を高めます。

#### ★めざすもの

生きとし生ける物の共存を認め合い、次世代が豊かに生きられる社会をめざしていきます。

原点に戻り、農作物の循環生産と健康で安全、安心な日本の食の聖地を作っていきます。

当推進協議会の特徴として、多岐にわたるジャンルからの専門家に関わっていただき、広い視野で生活全般を捉えた実現可能かつプロジェクト自体のブランド化をめざしています。



## 編集後記

はやいものでもう6月、みんな植えた稲は着実に育っています。そして、田んぼや畑には時期にあった生き物が活動し始めています。普段なにげに見ている田んぼや畑の土を見て触って臭ってみることで、新しい世界を発見するかもしれません。そして、自分たちが食べているもの、食べ物を作ってくれている、支えてくれている人へのまなざしづくりをしていきたいと思っています。楽しくやりましょう。(R)